

登録コード:MH1A4400 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産診断・技術学 (ハイリスク妊産褥婦)【22M～24M】 Diagnostics and Technics in Midwifery		
担当教員	芳賀 亜紀子 中込 さと子・徳武 千足		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年 前期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	1単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH22カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	ハイリスク妊産褥婦の特性を科学的根拠に基づき理解・判断し、対象者への助産ケアについて理解すること。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	ハイリスク妊産褥婦の特性に応じた知識・技術・態度を獲得し、活用できるようになること。	
	MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	助産師として、ハイリスク妊産褥婦の特性に応じた知識・技術・態度を獲得し、活用できるようになること。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	助産師として、ハイリスク妊産褥婦の特性に応じた課題に対して、地域・国際的な視点を持ち、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく力を身につける。	
	その他		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	助産師国家試験受験資格取得のための必修科目として開講する。ハイリスク妊産褥婦を対象とした病態と治療、必要な助産ケアについて学ぶ。 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本授業は、2～3年次に学んだ母性看護学概論・健康論・方法論・母性看護学実習、3年次に学んだ助産学概論・助産診断・技術学 において獲得した知識を前提とし、4年次前期の「助産診断・技術学」と連動して相補的に学んでいく科目になります。そして本授業の内容は4年次の助産学実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の周産期医療における助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	以下の8回を4月～5月に集中講義で行う。 第1回(4/21) ハイリスク妊産褥婦への助産ケア(芳賀)、小テスト 第2～3回(4/21) 出血と産科救急における助産ケア(ゲスト講師)、小テスト 第4回(4/23) 多胎妊産婦の管理と助産ケア(徳武)、小テスト 第5回(4/23) 周産期合併症妊産褥婦の管理と助産ケア(ゲスト講師)、小テスト 第6回(4/28) 周産期合併症妊産褥婦の管理と助産ケア(芳賀)、小テスト 第7回(5/20) 周産期のメンタルヘルス(ゲスト講師) 第8回(5/1) 授業アンケート、最終試験		
授業の進め方	授業は、指定のテキスト、スライドと配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解を深めるために事前学習(リーディング課題)を課します。 第1～6回の講義は、講義後に小テストを実施します。		
テキスト, 教材, 参考書	必携書 助産学講座第6巻 助産診断技術学 〔1〕妊娠期、医学書院 助産学講座第7巻 助産診断技術学 〔2〕分娩期・産褥期、医学書院 プリンシプル産科婦人科学2 メディカルビュー社、2015(第3版) 参考図書： ・助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護教育出版会 ・産婦人科診療ガイドライン2023		
成績評価の方法	1)最終試験100点 2)小テスト(第1～6回の講義後に実施) 1)最終試験得点を8割換算、小テスト平均点を2割換算とし、総合得点60点以上を合格とします。 試験結果については、実施後にフィードバックします。		
成績評価の基準	最終試験による成績評価の判定基準 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可、60点以上の得点を合格とします。 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」とし、60点台、応用問題が解ければ「やや上にある」とし、70点台、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」とし、80点台、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と判断し90点以上の得点を付けます。		

事前事後学習の内容	必ず事前学習（リーディング課題）に取り組むこと。 第1回：必携書 7章A、 7章A、 14章A 第2～3回：必携書 7章B2、 7章B2、 14章B3 第4・6回：必携書 6章B、 7章B1・4、 13章A 第5回：必携書 7章B1-2、 7章B1、 14章B5 第7回： 7章B、 13章B 本授業の単位修得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）+自己学習時間30時間（4時間×7.5回）=45時間（わかりやすくするため授業回数を7.5回で計算） *以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問への対応：芳賀亜紀子 akahaga@shinshu-u.ac.jp、徳武千足 ctokuta@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：質問には随時対応します。 研究室は中校舎3階にあります。